

神道政治連盟推薦

参議院議員 比例代表(全国区) 山谷えり子



「鎮守の森を守る」と

新年あけましておめでとございませう。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も山積する課題に全力で取り組んでいく所存でございます。

昨年、私は参議院環境委員会の委員長に就任いたしました。

環境保護ということで、私が思い出すのは、明治末期から行われた神社合祀政策と、それに対する南方熊楠、柳田国男らの反対運動です。

明治末期、政府の神社合祀政策により、その頃全国約十九万社あった神社が、大正八年には約十一万六千社に減少しました。約八万もの神社が失われました。当時は国家神道の時代でしたので、中央集権化と国の財政支出を抑えることも目的の一つであったと言われています。

しかし、こうした神社合祀に対して、反対運動を展開したのが、博物学者、民俗学者の南方熊楠でした。当時官吏をしていた柳田国男も南方に協力し、神社合祀中止の機運を盛り上げていきました。

そして運動は実を結び、大正九年、貴族院が「神社合祀無益決議」を採択し、神社合祀政策は終息を迎えたのでした。

この神社合祀政策で、地域の生態系は破壊され、水害や風害が村々を襲ったと言われています。南方は「神社合祀に関する意見」という文章の中で、環境保護の観点から、「千百年を経てようやく長ぜし神林巨樹は、一度伐らば億万金を費やすもたちまち再生せず」と訴えました。

しかし、南方の思想は、単なる生態的環境保護にとどまるものではありませんでした。神社を守ること、自然と共生することこそ、皇室崇敬の念を育み、よき国がらを守ることなのだと言張したので

す。

「漁夫より漁神を奪い、獵夫より山神を奪い、その祀を滅するは治道の要に合わず。いわんや、山神も海神もいづれもわが皇祖の御一族たるにおいてをや。神威を滅するは、取りも直さず、皇威に及ぼすところありと知るべし」

「わが国の神社、神林、池泉は、人民の心を清澄にし、国恩のありがたきと、日本人は終始日本人として楽しんで世界に立つべき由来あるを、いかなる無字無筆の輩にまでも円悟徹底せしむる結構至極の秘密儀軌たるにあらずや。」

神社を守ることは、心を清澄にし、円悟の生き方を叶えるといっているのです。環境保護が盛んに訴えられる社会となりましたが、真の環境保護とは、単に二酸化炭素を減らすことにとどまるものではなく、日本の国がらを守ることにつながるものです。このことを胸に、仕事に取り組んでまいりたいと思います。